

<レポート5>電波管理や災害時の無線局貸出、ローカル5Gの普及活動、各種DXの促進活動など幅広い仕事をしていることを知った

序論

私は多くの人の役に立つことができる仕事をしたいと考えていて公務員を目指しています。しかし、実際にどのような仕事をしているのかなど様々な疑問があり、実際に体験できるインターンシップに参加してそのような疑問を少しでも減らしたいという目的でこのインターンシップに参加しました。

インターンシップの実施期間としては8月23日、9月7日、9月27日の3日間で東海総合通信局の様々な部署の業務体験を行いました。

本文

1日目は航空海上課、陸上課、監視調査課の体験をしました。航空海上課では航空機と船舶の無線局とそれとやり取りするための陸上の無線局の許認可の業務を行っており、航空関係の無線局の免許を取る過程の手続についての説明を受けました。陸上課では航空海上課と同様に無線局の免許審査の手続についての説明を受けた後、無線機の操作体験を行いました。無線機は周波数を合わせることで通話ができ、携帯電話とは違い同時に会話は出来ないが複数人で使うことができるなど便利な点があると学びました。監視調査課では事後的な規制として不正な電波利用による混信を防ぐために電波管理の仕事をしていると説明を受けた。実際の活動としては免許人からの申告や通信局での監査計画をもとに、電波監視システム(DEURAS)による調査をし、現地に移動監視をして電波発射源の特定、行政指導又は行政処分という流れで行っている。このインターンシップではDEURASとスペクトルアナライザの体験を行いました。DEURASではセンサ局で受信した電波をモニターしたり、電波発射源の方位等を測定して、位置等を特定するシステムで、体験ではDEURASを使って空港に設置されている無線局の位置を確認し、音声を聞くことが出来た。また、スペクトルアナライザは電波発射源の方向を探ことができ、DEURASではある程度の位置を確認するのに対し、スペクトルアナライザは現地での調査で用いるもので、部屋の中で電波発射源を探す体験をしました。実際に体験してみると機械も重たく、いろんな方向に機械を動かしながら電波の強さを見て位置を探すことは非常に難しく感じました。実際には室内ではなく、外で違法な電波の発射源を探す業務で、意外と外に出て仕事をする機会も多くあることを知りました。電波管理の仕事は電波の混信妨害を避けるためのものであり、混信によって例えば電車や飛行機の無線が使えなくなった場合、大きな事故に繋がる可能性もあり、人の命にも関わる非常に大切な仕事だと感じました。

2日目は放送課、有線放送課の体験をしました。放送課の体験では前半に放送課で行っている許認可や監督業務の説明を受けた後、災害対応等の業務体験をしました。災害対応の業務体験では臨時災害放送局の模擬体験として一連の流れを体験しました。模擬体験ではありましたが、実際に災害が起きた場合に東海総合通信局ではどのような対応をするの

か、出来るのかについて知ることができる貴重な体験でした。また、午後からの体験ではローカル5G利用促進にあたっての意見交換会を行いました。参加したときはローカル5Gについて全く知らない状態でしたので、現在行っている取組み内容を聞いて様々な場面で活用されていて非常に便利なものだと感じました。利用アイデア出しのグループワークではどのようなものに活用されたらより便利になるかについて考えました。いざ考えようとしても最初は全くアイデアが出ず難しく感じましたが、グループで話している間に身近な何気ないことからでもより世の中が便利にするための活用方法は多くあるように感じ、今回はローカル5Gでしたが電波を使ってできることが沢山あると感じました。

3日目は電波利用企画課、情報通信連携推進課の体験をしました。電波利用企画課では、周波数の割当の仕事をしていて、空いている周波数帯を有効活用したり、5G実現のために周波数帯を確保したりするために周波数の割当をしていると説明を受けました。また、実際の事例としてF1レースでの周波数調整の業務内容についての説明を受けました。F1レースの場合、海外から来た人の利用する無線の周波数を管理しなければ、国内でその周波数帯を利用していた場合に混信する可能性があるため、通信局ではその審査を行っている。審査は日本国内でその周波数帯がどのように使われているかを確認し、周波数割当計画に合致しているか、重複する周波数を使った無線局が存在しないかを審査していると学びました。この事例の場合は約3ヶ月で審査の手続が終了したとのお話があり、意外と長い期間かけて審査業務を行っていると感じました。情報通信連携推進課では各種DXの取組みについての説明を受け、実際の活用事例、参加した人が考えた問題をどのような技術で解決することができるかを考える体験をしました。活用技術についての用語には知らない言葉も多く、難しく感じる部分もありましたが、問題の解決のために多くの手段があり、何かしらの技術を用いることで様々な問題を少しでも解決、解消出来ている事例があることを知りました。

結論

3日間で東海総合通信局の様々な仕事内容の説明、体験をさせていただきました。この体験で一番感じたことは様々な仕事をする事ができるという点です。この体験に参加する前は通信局の仕事内容について詳しくは知りませんでしたが、許認可などの事務をしているイメージでした。しかし、参加してみて許認可の仕事もありますが、電波管理、災害時の無線局貸出や企業と連携したローカル5Gの普及活動、各種DXの促進活動などと幅広い仕事をしていると知りました。ただ、様々な仕事があるといっても多くの部分で繋がっている内容もあり、参加する度に前回学んだ内容が出てきて業務のつながりも体感することが出来ました。体験の中では多くの専門用語がでてきて、理解出来なかった部分もありましたが、インターンシップの後に自分で調べるなど向上心を持って取り組むことが出来たと思います。このインターンシップで学んだこと、感じたことを今後活かしていけるように心掛けたと思います。

以上